

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	332魅力ある商業の育成		
施策のねらい (めざす姿)	消費者ニーズを的確にとらえ、より豊かな生活を提供する商業・サービス業が多数集積し、特に個性ある魅力的な個店には市外からも多くの消費者が訪れています。また、高齢者へのきめ細かな対応など、商店街が地域とのつながりをより深めています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	市民生活部次長
政策	33活力ある産業を育成します	マネージャー氏名	斉藤 薫

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	各商店会に対し街路灯のLED化を推進することで、街路灯の維持管理に係る費用負担を軽減する。また、商店街と地域のつながりを生む共同事業(イベント)に係る経費の増加を図る。	③改革・改善内容	街路灯のLED化を推進することで、固定費を抑え、商店会の活性化に必要な事業費を増加させる。事業費の増加は、イベント等の拡充となり、地域活性化につなげる。また、地方創生推進交付金を活用した「インバンドモニターツアー」をワカタネ市長訪問団の来訪と併せ実施するなど、事業の拡大、内容の拡充をし、市民の観光意識の醸成を図る。
②①に基づく取り組み結果	街路灯のLED化を推進した結果、市内の1商店会(グリーン通り商店会)の街路灯のLED化された。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	商工会、商店会連合会、ドリームカード会、市内14商工業振興団体	意図(対象をどうするのか)	補助金の交付を通じて商店街等の振興を図る。
②施策の概要	市内に存在する企業の大半を占める中小企業や経済活動を行う団体に対して、補助金交付やイベントの共同実施などで支援を行う。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	全庁的に補助金の見直しが行われた昭和63年に、商工会等の活性化及び育成のため創設された。ここ数年では、大型店や全国展開チェーン店の出店により、既存の商店街は厳しい立場に置かれている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27~28年度の施策の成果	商工会及び商店街の活性化・育成を図るために補助金の支出を行った。また、地方創生加速化交付金を活用して、ファイターズを共有資源とする北海道や沖縄県で市長のトップセールスや観光PRを実施した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目標値(32年度)
	i	年間商品販売額	千万円	—	7,687	—	8,700
	ii	小売業における売り場面積	m <sup>2</sup>	—	80,663	—	90,400
	iii						
③基本事業成果指標	i	商店数	店	649	638	調査中	630
	ii	商店会数	件	13	13	13	13
	iii	鎌ヶ谷情報ナビ登録件数	件	516	516	516	600
	iv	空き店舗情報公開件数	件	25	7	7	50
	v	ふるさと産品認定件数	件	31	33	33	35
	vi	観光入込客数	万人	18	27	32	32
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	平成27年度決算	平成28年度決算	市民一人あたり事業費(28年度決算)		平成29年度予算		
事業費(千円)	214,613	48,888	(単位:円) 448 円		35,307		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	電気料金の上昇などにより、各商店会で保有する共同施設(街路灯)の維持管理が困難となっている。固定費の支払い増が、商店会運営の圧迫につながっている。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	街路灯を有する10商店会のうち、平成28年度に1商店会がLED化され4商店会がLED化された。また、ファイターズを共有資源とする北海道や沖縄県で市長のトップセールスや観光PRを実施した。これらの事業により概ね成果は達成できた。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する事務事業	商工業振興に要する経費		
④上記方向性の説明	街路灯のLED化を推進し、固定費用(電気代等)を引き下げることで、共同事業(イベント等)の充実を図る。観光ビジョンの実現に向けて、より具体的に施策を推進・拡充していく。		